

慧心道人傳
六

分類 254 部
第 189 号
全 10 册卷
佛 教 大 学
图 书 馆 所 藏
受 领 第 149645 号
昭 和 年 月



0931 貴 年
20 重 月
6 書 日
佛 教 大 学 藏 书
第 149645 号



149645



本

朝祖師繪詞第六

六卷

武藏國猪俣耳糟太郎事

宇津宮弥二郎事

上野國菌田太郎事

武藏國熊谷入道事

武藏國津户三郎事

比叡山西塔南谷鐘下坊小輔公遁世事

兵部卿三位基親問事

光明房御返事

功德院肥後阿闍梨事

妙覺寺淨心房道心事

卷三十

七卷
八卷
九卷

可



21177

御傳卷六

目錄

重衡ノ將教誡事
上人東大寺五祖供養事
上人御歌事

黒谷上人傳繪詞第二十六卷

第一段

武藏國ノ御家人猪俣黨ニ甘糟ノ太郎忠綱ト云者
侍キフカク上人ニ歸シ念佛ノ行ヲコタリナカリケリ而ニ山
門ノ堂衆等獨歩ノアマリ衆徒ヲ忽緒ナイカシ日吉八王子
ノ社壇ヲ城擲トシテ惡行ヲタクミシカハ武士ヲサシ遣シ
テセメラシシ時忠綱勅ニ應ノ建及三年十一月十五
日カノ城擲ニムカフニツ上人ニ參シテ申ス様我等コト
ク罪人ナリトモ本願ヲ滿テ念佛世ハ往生疑ヒナキ旨日
來御ヲシヘヲ承テフカク其旨ヲ存ストイヘトモソシハ病ノ
床ニ卧テノトカニ編終終セン時ノ事ナリ武士ノナラヒ進退



キノ

印傳卷六

念

心ニマカセサレハ山門ノ堂衆ヲ追爵ノタメニ勅命ニヨリテ
只今八王子ノ城ヘ向ヒ侍リ忠綱武勇ノ家ニ生シテ弓
箭ノ道ニタツサハルス、ミテハ父祖カ遺塵ヲウシナハスシリッ
キテハ子孫ノ後榮ヲノコサンカ爲ニ敵ヲフセキ身ヲステハ
惡心熾盛ニシテ願今發起シカタシ今生ノカリナルイハシ
ヲオモヒ往生ノハナムヘキコトハリヲウスレスハカヘリテ敵ノ爲
ニトリコニセラレナンナカク臆病ノ名ヲト、メテ忽ニ譜代ノ
跡ヲ失ツヘシイツレラステイツレトルヘシトイフ事愚意ワ
キマヘカタシ弓箭ノ家業ヲモステス往生ノ素意ヲモトクル
道侍ラハ願クハ御一言ヲ承ラント申ケレハ上人仰ラル、
様彌陀ノ本願ハ機ノ善惡ヲイハス行ノ多少ヲ論セス

身ノ淨不淨ヲエラハス時處諸縁ヲキラハサレハ死ノ縁ニ
ヨルヘカラス罪人ハ罪人ナカラ名號ヲ唱テ往生スコシ本
願ノ不思議ナリ弓箭ノ家ニ生シタル人々トヒ軍陣ニタ、
カヒ命ヲ失フトモ念佛セハ本願ニ乘シ來迎ニ預ラン事ユ
メユメ疑ヘカラストコニカニ授ケ給ヒケレハ不審ヒラケ侍リヌ
サテハ忠綱カ往生ハ今日一定ナルヘシト悦ヒ申ケリ上人
ノ御袈裟ヲ給テヨロヒノシタニカケノレヨリヤカテハ王子ノ
城ヘ向ヒ命ヲステ、戰ケルニ太刀ヲ打拵テケレハフカキ疵
ヲ被リニケリ今分方トミエケルニ太刀ヲステ、合掌シ高
聲念佛シテ敵ノタメニ身ヲニカセケリ紫雲戰場ニタシ履
テ異香ヲカク人多カリケリ北嶺ニ紫雲タナヒシヨシ人申

カハハ
シモフテ
カハハ
シモフテ

ケル上人聞給テハシ井糟カ往生シツルヨトソ仰ラシケ
ル甘糟國ニト、メヲク妻室ノ夢ニ極樂ノ往生ヲ遂ヌル
由ヲ示シケレハ夢ノ告ニ驚テ國ヨリ飛脚ヲ立ケルニ此事
ヲ告テ京ヨリ下ケル使ニ行逢テ田舎ノ夢ノ告戰場ノ
往生ノ様タカヒニ語リケリ誠ニ不思議ノ事ニテソアリケル
戰場ニ命ヲステ、往生ノ前途ヲトケ父祖カ名ヲモアケ
本願ノ深意ヲモアラハセル事シカシナカラコレ上人勸化
ノユヘナリキ

第二段

宇津宮ノ彌三郎頼綱家子郎從濟々トシテ武蔵野
ヲ過ルニ熊谷入道行遇テ云様イミシク大勢ニテオハス

ルモノズナ但イカニ多クトモ無常ノ致鬼ハフセキカタクヤ侍
ヘラン彌陀如來ノ本願ニテ念佛スルモノヲハ惡道ニオト
サスムカヘトリ給ヘハ一人當千ノツハモノニモナヲマサリタル
ハコシ念佛ナリカマヘテ念佛シタヘト申ケルカ肝ニソミテ
覺ケル後念佛往生ニ心ヲカケテ大番勤仕ノ爲ニ上洛
シタリケル次ニ兼元二年十一月八日上入ノ勝尾ノ草
菴ニタツ子參シテ念佛往生ノ法御教誡ヲカウフル時上
來雖說定散兩門之益望佛本願意在衆生一向專
稱彌陀佛名ノ文ヲニタヒ誦シ給テ往生セウセシハワトノ
ノ心ノ一向ニ念佛セハ疑ヒナシトノ給ヒケル御詞耳ニ留
リテ覺ケル後一向專修ノ行者ニナリニケリ上人御往生

訓

ノ後ハフカク善慧房ヲタノミ申ケルカ結縁ノ爲ニ四帖ノ
疏ノ文字讀ハカリヲウケ遂ニ出家シテ實信房蓮生ト號
シ西山ニ草菴ヲシメ一向專念ノ外他事ナカリキ仁治
二年十一月廿二日天ハシ風シツカナル夜蓮生夢ミラ
ク深山幽谷ノ北ニ一ノ菴室アリ蓮生此中ニ侍リ小山
メクリカサナリ左右ノ峯タカクソヒヘタリナヲ北ノ山ヲミル
ニ三尺ハカリノ彌陀ノ立像虚空ニ影向シタマフイツシノ
所ヨリ來リマシラスニカト疑ヲナス所ニ虚空ニ聲アリテ佛
來臨ノ方ハ善光寺ナリトコタフ佛漸クチカツキ給ヒ光明
燦奕トシテ白玉ノカサリ誠ニ妙ナリ此時蓮生高聲ニ念
佛シ石ノ手ヲモテ佛ノ左ノ御手ヲニキリ奉ルニ始テホ

像ノ來現トシリ又年來安量ノ本尊ナリト悟又夢サメテ
後ハイヨイヨ信心ヲフカクシ念佛ノ勇ミヲナシ行住坐卧
ノ四威儀々々稱名ノ外他事ヲワル正元々々年十一月
上旬ノ比ヨリ聊病惱ノ事侍リケルカ同十二日端坐合
掌念佛相續シ瑞相アラハレテ往生ノ素懷ヲ遂ケルトナニ

第三段

上野國ノ御家人菌田太郎成家ハ秀郷ノ將軍九代
ノ孫菌田次郎成基カ嫡男ナリ武勇ノ道ニタツサハリテ
弓馬ノ藝ヲタシナシ射獵ヲ事トシテ罪惡ヲホレイマ、ニス
爰正治二年ノ秋大番勲仕ノ爲ニ上洛ノ時上人ノ念
佛弘通化導サカシニシテ貴賤歩ヲ運フヨシ傳聞テ宿縁

ノモヨホシケルニヤスノ菴室へ參シタリケルニ上人罪惡生
死ノ九夫彌陀ノ本願ニ乘シテ極樂ニ往生スルイハレ世
上ノ無常ヲハイトヒ淨土ノ不退ヲ子カフヘキ趣キ子シコロ
ニ教化シ給ニ信心胸ニ三千漏仰肝ニ銘シケレハヤカテ其歲
ノ十月十一日生年廿八歳ニテ出家ス法名ヲ智明
トソツケタニヘリ常隨給仕六箇年ノ後元久二年ニ本
國ニ下向シテ家ノ子郎從共余人ヲ教導シテオナシク出
家セサセテ同行トシテ酒長ノ御厨小倉ノ村ニ菴室ヲ
結テ一心ニ彌陀ヲ念シニ業ヲ西方ニハコヒケリ世ノ人
タラトヒテ小倉ノ上人トソ申ケル菴室ノ西一町餘ヲヘ
タテ、一間四面ノ御堂ヲ建立シテ御堂ノ妻戸ニ菴室

ノ戸ヲアケアハセテ佛前ノ燈明ヲ接取ノ光明ト思テ常ニ
光明遍照ノ文ヲ唱へ發露涕泣シケリ具縛ノ九夫ナリ
トモ本願ヲ憑テ念佛セハ往生ヲタカヒアルヘカラサルム子
上人示シ給ヒケルヲフカク心府ニヲサメテ行住坐卧ニ念
佛ヲコタル事ナシ九ノ念佛ノ外他事ヲマシヘサリケリ念
佛セサルモノヲハチシメイトヒケレハカノ室ニノソム道俗尊
早念佛セヌハナカリケリ或年元日ノ祝言ニ下僧一人ニ
心ヲ合テ庭前ニス、ミイテ、タカラカニモノ申サントイハセテ
西方淨土ヨリ御參ヲソク侍リイソキ御參アルヘシト阿彌
陀佛ノ御使ナリト申サセテ歡喜ノアリ客殿へ請ミ入レ
テ丁寧ニモテナシ種々ノ引出物ヲソ給ハセケル其後八年

コトノ事ニテ元日ニハコノワサヲナン結構シケリカノ山里ニ
ハ鹿オホカリケシハ作毛ヲマクセシタメニカノ所ノ人民等
田畠ニ墻ヲシマハシテフセキケルヲアハシミ歎テ上田三町
ヲ作りタテサセテ鹿田ト名付テ鹿ノ食物ニアテケル三田
歌ト云事ニハ念佛ヲナン唱サセケル寶治二年九月十
五日聊違例ノ氣アリ舎弟淡路守俊基ヲ三子キヨセテ
我身ハ老病アヒラカシテステニ終焉ニソノメリ今生ノ對
面今日ハカリナリ汝罪惡深重ノ人ナリ必ス念佛シテ
同ク安養ノ淨刹ニ參會セシムヘシタトヒ鹿鳥ヲ食ストモ
念佛ヲハカミマセテ申スヘシタトヒ敵ニ向テ弓ヲヒクトモ念
佛ヲスツル事ナカシトササニ教誡シケリ俊基還向ノ後

僧衆下ニトモニ別時ノ念佛ヲ修シテ暨日十六日戊尅
ニ端坐合掌シテ光明遍照ノ文ヲ誦シ高聲念佛一時
ハカリ唱テ禪定ニ入カ如クニ息絶ニケリ生年七十五ナ
リ時ニ紫雲屋上ニタナヒキ音樂外ニキコエテ持佛堂菴
室ノ間ニ光明苑滿シ室ノ内外ニ異香薰ス遠近ノ道
俗男女コレヲ見聞ス平生ノ昔ヨリ攝取ノ光明ニ心ヲヨ
セケルニハタシテカノ光明ヲ感得シケル不思議ニタウトクモ
侍哉

第四段

西明寺ノ禪門若冠ノ時ハ常ニ念佛ノ安心ナント小倉
ノ草菴ヘソ尋ラケル爰寛元ノ比使ヲ進シテ申ヲクリケ

ル六年來念佛ノ行者トシテ西方ヲ子カフ心子シコロナリ
栗ノ木トハ西ノ木トカケリ西方ノ行人トシテムツミシク覺
侍シハ多年コレヲ所持ストイヘトモ老體イナニヲキテハ行
歩ニアタハスソノ要ナキニ似タリ君西土ニ心ヲハコヒナシメ
ノ杖ヲサツケタテムツルニタヘタリコレヲ用テ淨土ニイラシメ
タニフヘントテ栗ノ木ノ杖ヲオクリ進シタリケシハ返狀ノ奥ニ
老ラクノユクス正カ子テオモフニハツクツウレシ西ノ木ノ杖
トソ書ラクラレケル禪門其後ハカノ勸化ヲ信シテ常ニ西
土ノ訛生ヲ心ニカケ彌陀ノ引接ヲソタノマシケル弘長二
年ノ比上人ノ孫弟敬西房法蓮房 関東下向ノ時上
人ノ傳ヲ進シタリケルニ數日披覽ノ後上人ノ德行ヲタ

サレハ

不乃

ヲトミテ念佛ノ安心ヲ尋ラシケシハ往生ノ故實勸行ノ
文ナントラ書テ奉リケリ禪門自筆ノ返狀云故實并ニ
勸行ノ文給リ候マヨクヨク見覺候テ往生ノ心ヲス、ム
ヘク候云云遂ニ翌年弘長三年十一月廿二日辰尅
臨終正念端坐合掌シテ往生ヲトケラル同十二月十
五日諏方入道蓮佛敬西房ニ送り遣ス狀ニ云ク西
明寺殿御往生ノ事中々申二旨出キ次第ニテ候十一
月廿二日辰時唐衣メシテ袈裟カケテ西方ニ阿彌陀
佛ヲカケマイラセテ倚子ニホラサ給テ御息スコシモミタシ
ス合掌シテ御往生候ナリ御イタハリトテ候シカトモスコシ
御苦痛候ハス然ヘキ御往生ノ因縁ニテ候ケリト覺候

御臨終ノ千カクナリ候テカクシテナキ仰ヲ蒙テ候キ阿彌陀ホトケノ御力ニテ淨土ヘニイリタラハムカヘウスルソト仰ノ候シカハ日比不足ナクカウフリテ候シ御恩ニハ百倍千倍シテタノモシクアリカク覺候テ歎ノ十カニモウシク候故入道殿ノ仰ニ蓮佛地獄ニオトサヌ様ニ教誡候ヘト仰候ケルヨシクケタニハリ候ヘハ念佛往生ノ次第便宜ニカナラスコマカニ仰給ルヘク候云取詮抑カノ禪門武將ノ賢哲柳營ノ指南トソ若冠ノソノカミヨリ寂後ノヲハリマテ上人勸化ノ風ヲウケ西土往生ノ望ヲトケラシケルニ蓮佛ヲ極樂ニ引道スヘキヨシニテ病中ニキリ給ヒケンアハシカシユクソ覺侍ル

第二十七卷

第一段

武藏國ノ御家人熊谷次郎直實ハ平家追討ノ時所所ノ合戰ニ忠ヲ致シ名ヲアケシカハ武勇ノ道ナラヒナカリキ而ニ宿善ノウチニモヨホシケルニヤ幕下將軍ヲウラミ申事アリテ心ヲオコシ出家シテ蓮生ト申ケルカ聖覺法印ノ房ニ尋行テ後生菩提ノ事ヲ尋申ケルニ左様ノ事ハ法然上人ニ尋申ヘシト申サレケレハ上人ノ御菴室ニ參シニケリ罪ノ輕重ヲイハスタ、念佛タニモ申セハ往生スルナリ別ノ様ナシトノ給ヲ聞テサメサメト泣ケレハケシカラスト思給テモノ給ハスハラクアリテ何事ニ泣給ソト仰ラシケ

シハ手足ヲモキリ命ヲモステ、ソ後生ハタスカランスルトソウ
ケ給ハランスラニト存スル所ニタ、念佛タニモ申セハ往生ハ
スルソトヤスヤスト仰ヲ蒙リ侍シハ餘リニラシクテナカシ侍
ルヨレヲソ申ケル誠ニ後世ヲ恐タルモノトミエタシハ無智ノ
罪人ノ念佛申テ往生スル事本願ノ正意ナリトテ念佛
ノ安心コマカニ授給ケレハフタ心ナキ專修ノ行者ニテ及
ク上人ニツカヘタテツリケリ或時上人月輪殿へ參シ給
ケルニ此入道推參シテ御共ニミイリケルヲト、メハヤト思
食サレケレトモサルクセ者ナレハ中々アヒカリヌト思食テ仰
ラル、首ナカリケレハ月輪殿マテニイリテク、又キニ候シテ縁
ニ手ヲチカケヨリカ、リテ侍ケルカ御談義ノ聲ノカスカニキ

コエテレハ此入道申ケルハアハレ穢土程ニ口惜所アラシ極
樂ニハカ、ル差別ハアルニシキモノヲ談義ノ御聲モキコエハ
コノトシカリ聲ニ高聲ニ申ケルヲ禪定殿下キコシメシテコ
ハナニモノソト仰ラレケレハ熊谷入道トテ武蔵國ヨリマカ
リノホリタルクセモノ、候カ推參ニ共ヲシテ候ト覺候ト上
人申給ケレハヤサシ、タ、メセトテ御使ヲ出サシテメサレケ
ルニ一言ノ色題ニモ及ハスヤカテメシニ隨テチカク大床ニ
袒候シテ聽聞仕ケリ往生極樂ハ當來ノ果報ナヲトヲシ
忽ニ堂上ヲユルサレ今生ノ華報ヲ感レヌル事本願ノ念
佛ヲ行セスハイカテカ此式ニ及ヘキト耳目驚テソミエケル

第二段

ノミ我
若上品上
生ノ生ヲ

蓮生念佛往生ノ信心決定シテ後ハ偏ニ上品上生ノ
往生ヲ遂クシクハ下八品ニ迎ヘラシイラセシトイフカ
タキ願ヲオコシテ發願ノ旨趣ヲノへ偈ヲ結テ自コシヲ書
付クカノ狀ニ云ク元久元年五月十三日鳥羽ナル所
ニテ上品上生ノ來迎ノ阿彌陀ホトケノ御前ニテ蓮生願
ヲ發テ申サク極樂ニ生シタランニハ身ノ樂ノ程ハ下品下
生ナリトモ恨ナシ然而天合ノ御釋ニ下之八品不可
來生ト仰ラレタリ同クハ一切ノ有縁ノ衆生一人モノコ
サス來迎セン無縁ノ衆生ニテモ思ヒヲカケテトフラハンカ
爲ニ蓮生上品上生ニムマシンサラヌ程ナラハ下八品ニハ
ムニルニレカク願ヲ發テ後ニ又イハク慧心ノ僧都ヌラ下品

上生ヲ子カヒ給タリ何况末代ノ衆生上品上生スル者
ハ一人モアラレト聖リノ御房ノ仰コトアルヲ聞ナカラカハ
願ヲオコシハテ、イハク末代ニ上品上生スルモノアルニキニ
而モヨロツ不當ナル蓮生イカテ上品上生ニハ生ルヘキノ
サナクハ下八品ニ生シレト願シタレトテ阿彌陀ホトケモ
レ迎給ハスハ第一ニ彌陀ノ本願ヤフレ給ヒナンス次ニ彌
陀ノ慈悲カケ給ナンス次ニ彌陀ノ願成就ノ文破レ給ナ
△ス次ニ釋迦ノ觀無量壽經ノ十惡ノ一念往生五逆
ノ十念往生又阿彌陀經ノ若ハ一日若ハ七日ノ念佛
往生又六方恒沙ノ諸佛ノ證誠又善導和尚ノ下至
十聲一聲等定得往生ノ尺又ナニヨリモ觀經ノ上品

然
ラ
イ

上生ノ三心具足ノ往生ソシテ善導ノ釋ノ具足三心
必得往生也若少一心即不得生又專修ノモノハ千ハ
千ナカラノ尺コトコトクコレラ佛ノ願トイヒ佛ノ言トイヒ
善導ノ釋トイヒ若蓮生ヲ迎ヘ給ハスハミナ破レテ各妄語
ノ罪ヲ得給ヒナンスイカテカ大聖ノ金言ムナシカルヘキヤ
又光明遍照十方世界ノ文又此界一人念佛名ノ文
此金言トモムナシカラレイヨイヨコレラノ文ヲモテ疑ナキナ
リトオモフ一切ノ有縁ノ輩即立歸テ迎ヘシトテ願ヲ發
テ上品上生ナラスハムカヘラシマイラセシトイフカタキ願ヲ
發シタルカヨクヒカ事ナラシ定五逆ノ者ハカリハアラシカシナ
シハイカナリトモ迎給ハヌコトアラシコレヲ疑ハヌ心ハ三心具

足シタリ上品上生ニムマルヘキ決定心ヲ發シタリソノ疑
煩惱斷シタリソノサトリヲヒライタリ善導又天台此事ヲ
ミルモノハ上品上生ニムマル又衆生ノ苦ヲヌク事ヲ得又
無生忍ヲサトル又樂極ニ所願ニ隨テ生ルトノ給ヘリ

下八品ノ往生

ワステ、シカモ子カハス

カノ國土ニイタラハリテ スナハチカヘリ來事アタハサシ
ハナリカサ子テコフ我願ニライテ或ハ信シ或ハ信セサラシモノ
子カハクハ信ト謗トヲ因トシテ ミナ一サニ淨土ニムルヘシ
千時元久元年五月十三日午時ニ偈ノ文ヲ結テ蓮
生イニ願ヲオコス熊谷入道年ハ六七十ナリ京ノ鳥羽ニ
テ上品上生ノ迎ハノ曼隆羅ノ御前ニテコレヲカク

取
上
證

又和字ノ偈ノ文ヲ隆寛律師漢字ニカキナサレケル

下八品往生

我捨而不願

致彼國土已

即不能還來

重乞於我願

或信或不信

願信謗為因

皆當生淨土

又蓮生自筆ノ夢ノ記云上品上生ニムルヘシトイフ夢
タヒタヒ見タリソハノ人モミテ告タリ善道ハ夢ヲミテサトリ
テ觀經ノ疏ハ作給ヘリ慧心又往生要集夢ヲ見テ記シ
給ヘリ又珠海決定往生集夢ヲ見テ記シ給ヘリ法華
經ニ四安樂ノ行者ノ夢ノ中ノ八相ヲ記シタヘリ而ニ
蓮生五月十三日ニ此願ヲ發テ同廿二日ノ夜阿彌

陀佛ニ申サク蓮生ガオコシテ候願成就スヘクハ疑ニシカ
ラシ御示現タヘ又叶マシクハ叶マレト示現タヘトナタサニ
モウタカフニシカラシ示現タヘト申テ子タルソノスナハ千夢ニ
ミル様金色ノ蓮ノ花ノクキハナカクテ枝モナクテソロソロト
シテタヘ一本立タルニソノメクリニ人十人ハカリ居マハリテ
アルニ蓮生申コトソコト人ハ一人モアシカ上ニハノホリエシ
蓮生一人ハ一定ノホルヘキナリトイヒハツシハイカニシテノホ
リタリトモオホヘスシテソノ蓮ノ花ノ上ニノホリテ端坐シテ
居タリトミハツシハ夢サメラハリヌ又願ヲオコスコノ願マコト
ナルヘクハ臨終ニユ、シカラシ人々耳目オトロクハカリノ瑞
相ヲニツ現シテモロモロノ人ニ彌陀ノ本願ミウラヤセ給ヘ

トオコシタリ故ニ上品上生ノ往生イヨイヨ疑ナキナリ又
同年六月廿三日ノ夢同シ心ナリ取上
蓮生自筆ノ發願ノ文漫記等ハミナ和字ナリトイヘト
モヨミニクキニヨリテ少々漢字ニナス

第三段

蓮生行住坐卧不背西方ノ文ヲワカク信シケルニヤアカ
ラサマニモ西ヲ背ニセサリケレハ京ヨリ関東ヘ下ケル時モ
鞍ヲサカサマニラカセテ馬ニモサカサマニ乗テロヨヒカセケルト
ナシサレハ蓮生

浄土ニモカクノモノトヤ沙汰スラシ西ニ向テウシロミセ子ハ
トソ諫シケル上人モ信心堅固ナル念佛ノ行者ノタメシ

テ

レトモ

候

ニハ常ニ思ヒ出給坂東ノ阿彌陀ホトケトソ仰ラレケル然
而ソノ性タケクシテナラ犯人ヲハ或ハ馬船ヲカツケ或ハホ
タシヲヲチ或ハシハリ或ハ筒ヲカケナトシテ誡メ置ケリヨニ心
エヌワサニテソアリケル下國ノ後不審ナル事トモヲ狀ヲモ
テ尋申ケレハ上人ノ御返事云悦テ奉リ候又實ニ其後
オホツカナク候ツルニラレシク仰ラシテ候但念佛ノ文書テ
マイラセ候念佛ノ行ハカノ佛本願ノ行ニテ候持戒誦經
誦咒理觀等ノ行ハカノ佛ノ本願ニアラヌヲコナヒニテ候
ヘハ極樂ヲ子カハン人ハマツ必ス本願ノ念佛ノ行ヲツトメ
テノヨヘニモシコトヲコナヒヲ念佛ニシクハ候ハント思ヒ候
ハ、サモツカニツリ候又タ、本願ノ念佛ハカリニテモ佛ヘシ

佛教大學藏

善導和尚ハ阿彌陀佛ノ化身ニテオハシメシ候ヘハソレコソ
ハ一定ニテ候ヘト申候ニ候孝養ノ行モ佛ノ本願ニアラ
ス夕ヘシニ隨テツトメサセオハシマスヘク候又銅ノ阿字ノ事
モ錫杖ノ事モ佛ノ本願ニアラヌツトメニテ候トテモカクテ
モ候ナン又迎接ノ曼陀羅ハ大切ニオハシメシ候ソレモ次
ノ事ニ候夕、念佛ヲ三萬若ハ五萬若ハ六萬一心ニ申
サセオハシメシ候ハンソ決定往生ノヲコナヒニテ候コト善根
ハ念佛ノイトマアラハノ事ニ候六萬反ヲタニ一心ニ申サセ
給ハ、ソノ外ニハ何事ヲカハ せサセオハシマスヘキマメヤカ
ニ一心ニ三萬五萬念佛ヲツトメサセ給ハ、少々飛行ヤ
フレサセオハシメシ候トモ往生ハソレニヨゾ候ニシキ事ニ候

但此中ニ孝養ノ行ハ佛ノ本願ニテハ候ハ子トモ八十九
ニテオハシメシ候ナリアヒカマヘテコトシナントハマキニイラサセ
オハシマセカレト覺候夕、ヒトリタノミイラセテオハシメシ候
ナルニカナラスカナラスニ子マイラセオハシマスヘク候ナリ
五月二日

源空武藏國熊谷入道殿御返事 已上
取詮

第四段

蓮生カ往生ウタカヒアルマシキヨシ或ハ佛ノ告ヲ蒙リ或ハ
不思議ノ奇瑞トモノ侍ケルヲ上入ニ申入ケル事カクシ十
カリケレハ月輪ノ禪定殿下聞食サレテ上入ニ尋申サシ
ケル御文ニ熊谷ノ入道往生ヲトケストイヘトモ不思議

ノ奇瑞等ヒトツニアラサルヨシ天下ニアマ子クカタラヒウタフ
事モシ實ナラハ寂前ニ告仰ラルヘキ所ニ今マテ無音ニ候
尤不審也彌陀利物末法偏増ノ證タ、カクノコトキノ
事ニアルカ隨喜感涙タトヘヲトルニモノナシ此事ヲ告給サ
ル条モシコレ一向欣求ニアラサルヨシ御疑ノアル欵子カフ
心サシノアサ、フカサハタ、阿彌陀如來ノ知見ニマカセタ
テマツルモノナリ但宿障深重ノユヘニ至誠心コソ術ナク
候ヘ信仰欣求ノ條ハ此比假名新發等ノ中ニ強ニ恐
思給ヘカラサルモノ欵イカニイカン來六七日ノ間必ス見
參ヲトケントオモフ申合ヘキ事等アルユヘナリ敬白四月
一日法然御房取詮禮紙云カノ入道ノマイラスル狀

馬

正文ヲ給テ一見ヲ加ヘントオモフ轉鴈ノ本ノ文字タ、
シカラスシテヨミサルトコロナリ比校スヘキモノナリ事ノ次
第殆タクヒスクナシ正シク往生ヲトケタランニハ超過シ畢
又貴ヘシ信スヘシ凡左右ニアタハサルモノナリ宿善ノイタリ
申テアニリアリソノ子息ノ會尺又以珍重一々ノ事皆
以不思議ノ境界ナリナヲ感涙禁シカタキ歎承及ニ隨テ
馳申所也御返報ノ趣ソノ草アラハ一見ノ志アリイ
カニ取詮
上人熊谷入道ニツカハサシケル御返事ニ云此条コソト
カク申ニ及ハス目出候ヘ往生セサセ給タランニハスクシテ
覺候死期知テ往生スル人々ハ入道殿ニ限ラス多候

禪

修行

加様ニ耳目オトロカス事ハ末代ニハヨモ候ハシ昔モ道緯
律師ハカリコソオハシマシ候へ返々モ申ハカリナク候但何
事ニツケテモ佛道ニハ魔事ト申事ノユ、シキ大事ニテ候
也ヨクヨク御用心候へキナリ加様ニ不思議ヲ示ニツケ
テモタヨリヲ同事モ候又へキ也日出候ニ隨テイタハシク覺
サセ給テ加様ニ申候ナリヨクヨク御ツ、シミ候テ佛ニモ祈
リマイラセサセ給へク候イツカ御ノホリ候へキカマへテカニ
テノホラセオハシマセカシ京ノ人々大様ハミナ信シテ念佛
ヲモイニスコシイサミアヒテ候コレニツケテモイヨイヨス、ニセ給
へク候アレサマニ思食スへカラスナヲナヲ日出候アナカレコ
アナカレコ

四月三日源空

熊谷入道殿取上

第五段

建永元年八月ニ蓮生ハ明年二月八日往生スへシ申
所モシ不審アラシ人ハ來テ見ルへキヨシ武蔵國村岡ノ
市ニ札ヲ立サセケリツタへキク輩遠近ヲワカス熊谷カ宿
所へ群集スル事幾千萬ト云事ヲシラス已ニ其日ニナリ
ニケシハ蓮生未明ニ沐浴シテ札盤ニ上テ高聲念佛體ヲ
セムル事タトヘヲトルニモノナシ諸人目ヲスマス所ニ暫アリ
テ念佛ヲ留メ目ヲ開テ今日ノ往生ハ延引セリ來九月
四日必ス本意ヲ遂へシソノ日來臨アルへシト申ケシハ群
輩ノ輩アサケリヲナシテ歸又妻子眷屬面目ナキワサナリ

御傳卷六
廿六
ト歎ケシハ彌陀如來ノ御告ニヨリテ來九月ヲ契ル所ナ
リ全ク私ノ計ニ非ストソ申ケルサル程ニ光陰程ナクウツリ
テ春夏モスキニケリ八月ノ末ニ聊ナヤム事アリケルカ九月
一日ソラニ音樂ヲ聞テ後更ニ苦痛ナク身心安樂ナリ
四日ノ後夜ニ沐浴シテ漸ク臨終ノ用意ヲナス諸人マ
タ群集スル事盛ナル市ノ如シ已ニ已剋ニ至ルニ上人彌
陀來迎ノ三尊化佛菩薩ノ形像ヲ一鋪ニ圖繪セラレ
テ秘藏ニ給ケルヲ蓮生洛陽ヨリ武州ヘ下ケルトキ給ハ
リタリケルヲ懸奉リテ端坐合掌シ高聲念佛熾盛ニシテ
念佛ト共ニ息トハル時口ヨリ光ヲ放ツナカサ五六寸ハ
カリナリ紫雲變鬘トシテ音樂鬘ホウキタリ異香芬郁シ大

地震動ス奇瑞連綿トシテ五日ノ卯時ニイタル豎日子
剋ニ入棺ノトキ又異香音樂等ノ瑞サキノ如シ卯時ニ
イタリテ紫雲西ヨリ來テ家ノ上ニトハマル事一時アマリ
アリテ西ヲ指テ去ヌコシラノ瑞相等遺言ニ任テ聖覺法
印ノ許ヘ注シヲクリケリ往生ノ靈異スコフル比類ニシナル
事ニナン侍ケシハ實ニ上品上生ノ往生ウタカヒナシトソ
申アヒケル

第二十八卷

第一段

武藏國ノ御家人津ノ戸ノ三郎爲守ハ生年十八歳ニ
シテ治養四年八月ニ暮下將軍千時石橋ノ合戰

奉

ノ時武藏國ヨリ馳參テ後安房國へ越給シニモ同クア
 ヒ隨ヒ處々ノ合戰ニ忠ヲ致シ名ヲアケスト云コトナシ建
 久六年二月東大寺供養ノ爲ニ幕下上洛ノ事アリキ
 爲守生年三十三ニテ供養シタリケルカ三月四日入
 洛シ同廿一日上人ノ庵室ニ參リテ合戰度々ノ罪ヲ
 懺悔シ念佛往生ノ道ヲ承リテ後ハ但信稱名ノ行者ト
 ナリニケレハ本國ニ下テモヲコタリナカリケルニ或人熊谷入
 道津戸三郎ハ無智ノ者ニテ余行カナヒカタケレハコソ念
 佛ハカリヲハス、メタマフラメ有智ノ人ニハ必シモ念佛ニハ
 限ルヘカラスト申ケルヲ爲守ツタヘ聞テ上人ニ尋申ケル
 次テニ条々ノ不審ヲ申入ケリ上人ノ御返事云

御
フ
シ

熊谷入道津戸三郎ハ無智ノ者ナレハニソ但念佛ヲハス
 スメタシ有智ノ人ニハ必シモ念佛ニハ限ルヘカラスト申ヨシ
 聞エテ候ラシ極タル僻事ニ候ソノ故ハ念佛ノ行ハ本ヨリ
 有智無智ニ限ラス彌陀ノ昔誓ヒ給シ本願モアマ子ク一
 切衆生ノ爲ナリ無智ノ爲ニ念佛ヲ願シ有智ノ爲ニハ
 余ノフカキ行ヲ願シ給コトナシ十方衆生ノ句ニヒロク有
 智無智有罪無罪善人惡人持戒破戒カレコキモイヤ
 シキモ^{乃至}皆コモシルナリサレハ往生ノミチヲ問尋候人ニハ
 有智無智ヲ論セス皆念佛ノ行ハカリヲ申候ナリ而ニソ
 ラ事ヲカマヘテ左様ニ念佛ヲ申ト、メントスルモノハ先ノ世
 ニ念佛三昧淨土ノ法門ヲキカス後ノ世ニ又三惡道へ

カヘルヘキモノ、シカルヘクテ左様ノ事ヲハタクミ申事ニテ
候ナリ其ヨシ聖教ニ見エテ候見有修行也瞋毒方便
破壊競生悉如此生盲闍提輩毀滅頓教永沉淪超
過大地微塵劫未可得離三途身ト申タルナリ此文ノ
心ハ淨土ヲ子カヒ念佛ヲ行スルモノヲミテハイカリヲオコシ
毒心ヲ含テハカリコトヲメラシヤウヤウノ方便ヲナシテ念
佛ノ行ヲ破リテアラソヒテアタヲナシコシヲト、メントスルナ
リカクノコトキノ人ハ生レテヨリコノカタ佛法ノ眼シ井テ佛
ノ種ヲ失ナヘル闍提ノ輩ナリ彌陀ノ名號ヲトナヘテナカ
キ生死ヲ忽ニ切テ常住ノ極樂ニ往生ストイフ頓教ノ御
法ヲソシリホロホシテ此罪ニヨリテ三惡道ニ沉テ大地微

塵劫ヲ過トモナク三惡道ノ身ヲハナルヘカラストイヘルナ
リサレハ左様ニソラ事ヲタクミテ申候ラン人ヲハカヘリテアハ
シムヘキナリサ程ノモノ、申サンニヨリテ念佛ニ疑ヲナシ不
信ヲオコサンモノハイフニタラヌ程ノ事ニテこそハ候ハヌ大方
彌陀ニ縁アサク往生ニ時イタラヌモノハキケトモ信セスヲコ
ナフヲミテハ腹ヲタテイカリヲ含テサマタケントスルコトニテソノ
心ヲエテイカ二人申トモ御心ハカリハユルカセ給ヘカラス強
ニ信セサラシハ佛ナヲカヲヨヒタマフニ何况凡夫ノカヲ
ヨヒ候ニシキ事ナリカ、ル不信ノ衆生ヲ利益セントオモハシ
ニツケテモトク極樂ヘニイリテサトリヲヒラキテ生死ニカヘリ
テ誑謗不信ノ者ヲモツタシテ一切衆生アニ子ク利益セン

トオモフヘキ事ニテ候也

念佛ヲ申サセ給ハニハ心ヲツ子ニカケテロニワスシス唱ル
カメテタキコトニテ候ナリタトヒ身モキタナク口モキタナクト
モ心ヲ清クシテ申サセ給ハニ事返々神妙ニ候ヒニナク左
様ニ申サセ給フランコソ返々日出タク候ヘイカナラントキ
ナリトモワスレシテ申サセ給ハ、往生ノ業ニカナラスナリ候
ハンスルナリイカナルトキニモ申サシサラシコソ子ニシテ申ハヤ
ト思ヒ候ヘキニ申サレシテ申サセ給ハヌコトハイカテ
カ候ヘキタ、イカナルオリモキラハス申サセ給フヘシ
アラヌ行コトサトリノ人ニ向テイタクシ井テ仰セラル、コト
候ニ異解異學ノ人ヲ見テハコレヲ恭敬シテカロシメアナ

トル事ナカシト申タルコトニテ候也阿彌陀佛ニ縁ナク極
樂淨土ニキリスクナカラシ人ノ信モオコラス子カハシクモ
ナカラシニカヲヨハスタ、心ニ任テイカナルヲコナヒヲモシテ
後生タスカリテニ惡道ヲハナル、コトヲ人ノ心ニシタカヒテ
ス、メ候ヘキナリ又チリハカリモカナヒ又ヘカラシ人ニハ阿彌
陀佛ヲス、メ極樂ヲ子カハスヘキニテ候ソイカニ申ストモコ
ノ世ノ人ノ念佛ニアラテハ極樂ニムマシテ生死ヲハナル、
事ハ候ニシキナリモシハソシリモシハ信セサランモノヲハコハカ
ラテコレラフヘキニテ候ナリ已上取註コノ御返事ヲ給テ後ハイ
コイヨ念佛ノ外他事ナカリケルヲ見ウラヤミテ專修念佛
ノ行人カノ國中ニ三十余人マテニナリニケシハ此由ヲ上

人へ申入ケルニ上人御返事云專修念佛ノ人ハヨニア
リカタク候ニツノ一國ニ三十余人マテ候ランコソマヤカ
ニアハレニ候へ京邊ナトノツ子ニキ、ナラヒカタハラヲモ見ナラ
ヒ候又へ申所ニテ候ニタモ思切テ專修念佛スル人ハアリ
カタキ事ニテ候道綽禪師ノ平州ト申所コソ一向念佛
ノ地ニテハ候シカ專修念佛三十余人ハヨニアリカタク覺
候コレヒトへ御力又熊谷入道ナントユヘニテコソ候ナレ
ルモ時ノイタリテ往生スヘキ人ノ多候へキユヘニコソ候ラメ
縁ナキコトハワサト人ノス、メ候ニタモ叶ハヌ事ニテ候へハ
レシテ予細モシラセ給ハヌ人ナントノ仰ラシニヨルへキ事
ニテモ候ハヌニモトヨリ機縁純熟シテ時イタリタルコトニテ

攝

候へハコソサホト專修ノ人ナントハ候ラメトヲレハカラシ候
念佛往生ノ誓願ハ平等ノ慈悲ニ住シテ發シ給ヒタル事
ナレハ人ヲキラフコトハ候ハヌナリ佛ノ御心ハ慈悲ヲモテ體
トスル事ニテ候ナリサレハ觀無量壽經ニハ佛心トイフハ大
慈悲コレナリト説シテ候善導和尚此文ヲ受テ此平等
ノ慈悲ヲモテハ普ク一切ヲ接スト釋シタヘリ一切ノ言ヒ
ロクシテモル、人候へカラスサレハ念佛往生ノ願ハコレ彌陀
如來ノ本地ノ誓願ナリ余ノ種々ノ行ハ本地ノチカヒニ
アラス釋迦モ世ニ出給事ハ彌陀ノ本願ヲトカント思食
御心ニテ候へトモ衆生ノ機縁ニ隨ヒ給フ日ハ余ノ種々
ノ行ヲモ説給フハコレ彌陀如來ノ本地ノ誓願ナリ余ノ

種々ノ行ハ本地ノ千カヒニアラスコシ隨機ノ法ナリ佛ノ身
ノカラ御心ノ盛ニ候ハスサレハ念佛ハ彌陀ニモ利生ノ本
願釋迦ニモ出世ノ本懷ナリ余ノ種々ノ行ニ似ス候也
已上取詮 此仰ヲ承テ後ハマススイサミヲナシ念佛ノ外他事
ナカリキ

第二段

津戸三郎上人ノ門弟淨勝房唯願房等ノ僧衆少
少申クタシテ念佛ノ先達トシテ不断念佛ヲハシメヲコナ
ヒケルヲ爲守聖道ノ諸宗ヲ謗シ專修念佛ヲ與スルヨシ
元久二年ノ秋ノ比征夷將軍右大臣ニアラヌサマニ實朝公議
シ申者有テ召尋ラルヘキヨシキコエケレハ爲守驚テ苦サル

事アラハイカ、申上候ヘキ難答ノ詞假令ノ様ヲ假名真
名ニラハレク注シ給ルヘキ旨飛脚ヲモテ上人ニ申入タリ
ケレハ上人御返事云念佛ノコトイニタクハシクナラハセ給ハ
ヌコトニテ候ヘハ專修雜修ノ間ノ事ハクハシキ沙汰候ハス
トモ召トハシ候ハ、法門ノクハシキコトハシリ候ハス御京上
ノ時ヲケタマハリツタヘテ候聖ノ許ヘマカリ候テ後世ノ事
ヲハイカ、シ候ヘキ在家ノ者ナントノ後生タスカリ候ヌヘ
キコトハ何事カ候ラントトヒ候シカハヒシリノ申候シ様ハ
生死ヲハナル、ミチハ様々ニ多ク候ヘトモソノ中ニ極樂ニ
往生スルコシ佛ノ衆生ヲス、メテ生死ヲイタサセ給フ一
ノ道ナリ而ニ極樂ニ往生スル行又様々ニ多ク候ヘトモ

ソノ中ニ念佛ハコシ彌陀ノ一切衆生ノ爲ニミツカラ誓ヒ
給タリシ本願ノ行ナシハ往生ノ業ニトリテハ念佛ニシクハナ
シ往生セントオモハ、念佛ヲコソハセメト申候キ何況又在
家ノ者ノ法門ヲモシラス智慧モナカラシモノハ念佛ノ外ニ
ハナニコトヲシテ往生スヘシトイフコトナシワカオサナクヨリ法
門ヲナラヒタルモノニテアルタニモ念佛ヨリ外ニ又何事ヲ
シテ往生スヘシトモ覺子ハタ、念佛ハカリヲシテ彌陀ノ本
願ヲタノミテ往生セント思テアルナリニシテ在家ノ者ナニ
トハナニ事カアラント申候シカハフカクソノ由ヲ漏候テ念佛
ヲ仕リ候ナリ又此念佛ヲ申コトハタ、ワカ心ヨリ彌陀本
願ノ行ナリトサトリテ申事ニモ非ス唐ノ代ニ善導和尚ト

佛

業

申候シ人ノ往生ノ行業ニヲキテハ專修雜修ト申二ノ行
ヲ分ニス、メ給ヘルナリ專修トイフハ念佛ナリ雜修トイフ
ハ念佛ノ外ノ行ナリ專修ノ者ハ百人ハ百人ナカラ往生
シ雜修ノ者ハ千人カナカニワツカニ一二人アリト云ヘル也
唐土ニ又信中ト申者コノ旨ヲシルシテ專修淨土文ト
云文ヲ作テ唐土ノ諸人ヲ勸タリ專修ニツイテ五種ノ專
修正行ト云コトアリ此五種ノ正行ニツイテ又正助ニ
行ヲワカテリ正業ト云ハ五種ノ中ノ第四ノ念佛ナリ助
業ト云ハソノ外ノ四ノ行ナリ今決定シテ淨土ニ往生セン
ト思ハ、專雜ニ修ノ中ニハ專修ノヲシヘニヨリテ一向ニ
念佛スヘシ正助ニ業ノ中ニハ正業ノ勸ニヨリテ一心ナ

ク々、第四ノ稱名念佛ヲスヘシト申候シカハクハシキ旨フ
 カキ心ヲハシリ候ハスサテハ念佛ハメテタキ事ニコソア。ナシト
 信シテ申候ハカリニ候件ノ善導和尚ト申人ハ氏アル人
 ニモ候ハス阿彌陀佛ノ化身ニテオハシマシ候ナレハヲシヘ
 ス、メサセ給ハンコトヨモ僻事ニテハ候ハシトフカク信シマイ
 ラセテ念佛ハ仕リ候ナリソノツクラセ給テ候ナル文共多ク
 候ナシトモ文字モシリ候ハヌモノニテ候ヘハタ、心計ヲ聞
 候テ後生ヤタスカリ候往生ヤシ候ト申候程ニカキモ
 ノトモミウラヤミ候テ少々申者トモ候ナリトコレラ程ニ申
 サセ給ヘシ中々委ク申サセ給ハ、アヤマキモアリナントシテ
 アシキ事モコソ候ヘ様々ニ難答ヲレルレテ候ヘトモ時ニノ

ソミテハイカナル詞トモカ候ハンスランニ書テマイラセテ候ハン
 モアレク候又ヘク候タ、ヨクヨク御ハカラヒ候テ早脱ヨキ様
 ニコソハカラハセ給ハメ又念佛申スヘカラスト仰ラシテ候ト
 モ往生ニ志アラン人ハソレニヨリ候マシ念佛イヨイヨ申セ
 ト仰ラシ候トモ道心ナカラシモノハソレニヨリ候マシトカクニ
 ツケテイタク思食事候マシイカナランニツケテモコノタヒ往
 生シナント人ヲハシラヌ御身ニカキリテハ思食ヘシ殿ハ道理
 フカクシリテ僻事ハオハシマサヌコトニテ候ト申アヒテ候ヘハ
 コシラ程ニ聞食サンニ念佛僻事ニテアリケリ今ハナ申ソト
 仰ラル、コトハヨモ候ハシサラサラン人ハイカニ申トモ思フ
 トモ無益ノ事ニテコソ候ハンス已上取詮而ニ翌年四月廿

五日ニ信濃前司千時山城民部大夫行光力奉行ニテク々サル、
御教書云津戸卿内建立念佛所令居住一向專修
輩之由所聞食也彼宗之子細爲有御尋爲宗之輩
一兩人早可被召進之狀依仰執達如件云仍同月
廿八日淨勝房唯願房等ノ念佛者ヲアヒ具シテ法華
堂ノ前ノ二棟ノ御所ト號スル南向ノ廣廂ニ參候ス重
重ノ御尋ニツキテ津戸三郎ハ上人御返事ノ趣ヲソラニ
ツカヘテ用意シタル事ナシハト、コホリナク申入ケルニ淨勝
房等ノ念佛者八年來所學ノ道ナシハ法藏比丘因位
ノ昔ヨリ彌陀如來成佛ノ今ニ至ルニテ九夫往生ノミチ
クシカラス述申ケルハ面々ニ立申ム子コトコトク聞食ヒラ

カレケルニヨリテ專修ノ行ニライテハ子細アルヘカラスモトノ
コトクツトメ行ヘキヨシ仰出サシレノキハイヨイヨ念佛ノ行
ヲコタリナカリシカハ建保七年正月右府薨逝ノトキ二
品禪尼ノ御ハカラヒトシテカノ御骨ヲ此所ニワタシタテマ
ツラシケルハ偏ニカノ御菩提ヲソトフラヒ申ケル

第三段

爲守フカク上人ノ勸化ヲ信ニ偏ニ極樂ノ往生ヲ子カヒ
テ二心ナク念佛シケルカ同ハ出家ノ本意ヲトケハヤト思
ケルニ關東ノ免許ナカリケルハ在俗ノ形ナカラ法名ヲツ
ク戒ヲウケ袈裟ヲ持ツヘキヨシ上人ニソツミ申入ケルハソノ
志ヲ衰テ寛印供奉ノカ、レタル戒本十重禁ノ次第并

ニ上人抄記ノ三聚淨戒ノ合ナントヲシルシクタサシ又
袈裟ヲツカハシ尊願トイフ法名ヲタサシニケリ此御返
事ヲ給テ後ハ偏ニ出家ノ思ヲナシテ念佛ス又其後上人
所持ノ念珠ヲ所望シケル御返事ニハコシ程ニ思食事ハ
此世一ノ事ニアラス先ノ世ノフカキ契リト哀ニ候カマヘ
テ極樂ニ此度參リアハ世給ヘシ常ニ持テ候ス、マイラセ
候御念佛ヲコタラスセサセオハシニスヘシト云取盡又或時
ノ御文ニハ此度カマヘテ往生シナント思食切ヘク候受カ
タキ人身已ニ受タリアヒカタキ念佛往生ノ法門ニアヒタ
リ娑婆ヲイトフ心アリ極樂ヲ子カフ心ヲコリタリ彌陀ノ
本願深シ往生ハ御心ニアルナリユメユメ御念佛ヲコタラ

ス決定往生ノヨシヲ存セサセ給ヘシ云コレヲノ御文トモ
ヲ錦ノ袋ニ入テ身ヲハナタサリケリシカルヘキ事ニヤ建保
七年正月右叢相實朝公薨逝ノトキ免許ヲ蒙テ出
家ヲトケ上人ヨリシルシクタサシケル法名ヲツタヘ尊願ト
ソ申ケル上人往生ノ後八日隨テ極樂ノ戀シク年ヲオヒ
テ穢土ノイトハシク覺ケルマ、ニハ此御文ヲ取出シ拜見シ
テハトクムカヘサセ給ヘト申ケレトモ空ク歲月ヲ送ケル間
上人ノ門弟淨勝房以下ノ僧衆ヲモテ仁治三年十
月廿八日ヨリ三七日ノ如法念佛ヲハシメ十一月十
八日結願ノ夜半ニ道場ニシテ高聲念佛シミツカラ腹
ヲ切テ五臟六腑ヲ取出シ練大口ニツ、ミテ忍テウシロノ

ツキテ
ニ

河ニステサセニケリ夜陰ノ事ナシハ人更ニヨシラシラス其後
僧衆ニ向テ加様ニ出家籠居シテ大臣殿ノ御菩提ヲ
トフラヒ申ニツケテモ主君ノ御ナコリモ戀シクマシマスウヘ
上人モ極樂ニ必ス參リアヘト仰ノ侍リシニ今ニテ往生
セシテ穢土ノスマヒ旁々無益ナリ釋尊モ八十ノ御入
滅上人モ八十ノ御往生尊願滿八十ナリ第十八ハ念
佛往生ノ願ナリ今日又十八日ナリ如法念佛ノ結願
ニ當テ今日往生シタラシハ殊勝ノ事尤ヘシナト申ケシハ
カ、ル用意トハ思モヨラス只アラマシノ詞ト心得テ實ニメ
テタクコソ候ハメト返答シタルニソノ夜モアケ十九日ニモナ
リニアヘテ苦痛ナシ只今臨終スヘキ心地モナカリケシハ

予息ノ民部大夫守朝ヲヨヒテ切タル腹ヲ引アケテマロキ
モトイフ者ノ殘テ臨終ノフルト覺ユルナリヨリテミヨト申
ケル時ソハシメテ人シリニケル心サキノ程ニマロキ者ノアルヨ
シヲ申ケシハ手ヲ入テ引切テナケステ、コレカノコレル故ニ
臨終ハノフルナルヘシトソ申ケル人々驚キアハテケレハ娑婆
ノイトハシク極樂ノ子カハシキ志日ニ隨テイヤマサリナシハ今
一日モトクマイリタクテカクハカラヒ又ルヨシヲカキクトキ申ケ
レハ實ニ願往生ノ志熾盛ナルアリサミル人ミナ涙ヲナカサ
ヌハナシスコシキノイタミモナクテ念佛シケルカ七日ニテノヒケ
レハツカヒノ水ノカヨウユヘナルヘシトテウカヒヲトマニ塗香
ヲ用ケルカ氣力モ更ニ衰ヘス程ナク疵モ愈ニケル後三時

塗香

時行水ヲ用井ケルトカヤ正月一日ニモナリニケレハ死セス
シテハ往生スヘキミチナキユヘニ尊願ハ正月一日ノ祝ニハ
臨終ノ儀式ヲナラシテ年久クナシリ日來ノアラマシタカハ
スレテ今日往生スヘキ故ニ延引シケルト悦テ頻ニ念佛
シケレトモ其日モスキ次ノ日モ又ク一ノ只今臨終スヘキ
心地モナカリケレハ上人ノ御文ヲ又取出テ往生ノ後ハ
思出ヘキナリ必ス極樂ニ參リアヘト自筆ノ御文ニノセラ
シナカライソキ參ラント心ヲツクシ侍ニヲソクムカヘサセ給コ
トノ心ウク侍ルヨシ連日ニテケキ申ケルカ正月十三日ノ
夜ノ夢ニ來十五日午尅ニ迎ヘキヨシ上人來テ告給ト
ミルサメテコレヲ語リ歡喜ノ淚ヲ流シケリ件ノ日ニナリニシ

カハ上人ヨリ給タル袈裟ヲカケ念珠ヲモチテ西ニ向端坐
合掌シテ高聲念佛數百反ヲトナヘ午ノ正中ニ念佛ト
共ニ息絶ヌ紫雲空ニソヒキ異香室ニミツ茶毗ノ庭ニ至
ルマテツノ匂ナヲキエサリケリ腹ヲ切テ後水漿ヲ断テ五
十七日氣力ツ子ノコトクシテイタム所ナク遂ニ往生ヲト
ケニケル不思議ノ事ナリ抑今ノスル所ノ自害往生水
漿ヲ断テ後五十余日ヲフルコト殆信ヲトリカタシトイヘ
トモカノ子孫上人ノ御消息并ニ念珠袈裟等ヲ相傳シ
テ披露スル事世モテカクシタシタ、コレ尊願力不思議ノ
奇特ヲノスルハカリナリ余人サラニコノミ行セヨトニハ非ス
九上代上機ノ事ハ暫クコレヲ閣ク末代當世ノ行者ハ

幾根ヨハキユヘニタトヒ思タツモノアリトモソノ期ニノソミテ
 モシ後悔ノ一念モオコリ又ヘシシカラハ何ノ詮カアラン上
 人モイケラハ念佛ノ功ツモリシナハ往生ウタカハストテモカク
 テモ此身ニオモヒワツラウ事ソナキト心得テ子ニコロニ念
 佛シテ畢命ヲ期トセヨトソ禪勝房ニハサツケラレケル鎮西
 ノ聖光房モ自害往生燒身往生入水往生斷食往生
 等ノ事末代ニハ斟酌スヘシト誠タヲカレケルトカヤユメユ
 メコノミ行スヘカラスフカク上人ノ勸化ヲ信シテ念々相
 續畢命爲期ノ行ヲツトムヘキモノナリ

第二十九卷

第一段

比叡山西塔ノ南谷ニ鐘下房ノ少輔トテ聰敏ノ住侶
 アリケリ弟子ノ兒ニラクシテ眼前ノ無常ニ驚キ交衆モノク
 ク覺ケレハ三十六ノ年遁世シテ上人ノ弟子トナリ成覺
 房幸西ト号シケルカ浄土ノ法門ヲモトナラヘル天台宗
 ニ引入テ迹門ノ彌陀本門ノ彌陀トイフコトヲタテ、十
 劫正覺トイヘル迹門ノ彌陀也本門ノ彌陀ハ無始本
 覺ノ如來ナルカユヘニ我等所具ノ佛性トマタク差別異
 ナレコノ謂ヲキク一念ニコトタリ又多念ノ遍數ハナハタ無
 益ナリト云テ一念義ト云事ヲ自立シケルヲ上人此義
 善導ノ御心ニソムケリハナハタレカルヘカラサルヨシ制シ仰
 ラレケルヲ承引セシテナラ此義ヲ真シケレハワカ弟子ニア

ラストテ壇出セラシニケリ

第二段

兵部卿三位基親卿フカク上人勸進ノ旨ヲ信シテ毎日五萬遍ノ數遍ヲコタリナケルヲ成覺房一念義ヲ々テ、彼卿ノ數遍ヲ難シケル重々問答シテ成覺房ノ義并ニ所存ヲシテ上人ニ尋申サシケル狀ニ云念佛ノ數遍并ニ本願ヲ信スル様基親カ愚案カクノコトク候難者イハレナク覺候此折紙ニ御存知ノ旨御自筆ヲモテ書給ハルヘク候難者ニヤフラルヘカラスアルカユヘナリ別解別行ノ人ニテ候ハ、耳ニモ入ヘカラス候ニ御弟子等ノ説ニ候ヘハ不審ヲナシ候ナリ又念佛者ハ女犯ハ、カルヘカ

料

ラスト申アヒタ在家ハ勿論ナリ出家ハコト本願ヲ信ストテ出家ノ人ノ女ニカツキ候条イハレナク候致善道ハ目ヲアケテ女人ヲミルヘカラストコソ候又レコノ事アラアラ仰ラカフルヘク候基親ハタ、ヒラニ本願ヲ信シテ念佛ヲ申候ナリ。斷簡モ才學モ候ハサルユヘナリ云取註 彼注進ノ狀云基親取信。

信本願之様

雙卷經上云設我得佛十方衆生至心信樂欲生我國乃至十念若不生者不取正覺 同下云聞其名號信心歡喜乃至一念至心迴向願生彼國即得往生住不退轉

往生禮讚云今信知彌陀本弘誓願及稱名號下至
十聲一聲等定得往生乃至一念無有疑心 觀經
疏云一者決定深信自身現是罪惡生死凡夫曠劫
已來常沒常流轉無有出離之緣二者決定深信彼
阿彌陀佛四十八願攝受衆生無疑無慮乘彼願力
定得往生 此等ノ文ヲ案シ候テ基親罪惡生死ノ凡
夫ナリトイヘトモ一向ニ本願ヲ信シテ名號ヲ唱候毎日
ニ五百遍ナリ決定佛ノ本願ニ乘シテ上品ニ往生スヘキ
ヨレフカク存知シ候ナリ此外別ノ斷簡ナク候而ニ或人
本願ヲ信スル人ハ一念ナリ而シテ五萬反無益ナリコシ
本願ヲ信セサルナリト申基親答曰念佛一聲ノ外百反

乃至萬反ハ本願ヲ信セストイフ文候ヤト難者云自力
ニテハ往生ハカナヒカタシタ、信ヲナシテノチハ念佛ノ數無
益ナリト申基親又申云自力往生トハ他ノ雜行等ヲ
モテ願スト申サハコソハ自力トハ申候ハメ隨テ善道ノ疏
云上盡百年下至一日七日一心專念彌陀名號定
得往生必無疑ト候又ルハ百年念佛スヘシトコソハ候ヘ
又上人ノ御房七萬反ヲ唱ヘシメマシニス基親御弟子
ノ一分ナリヨテ數多ク唱ヘント存候ナリ佛ノ恩ヲ報スル
ナリ禮讚云不相續念報彼佛恩故心生輕慢雖作
業行常与名利相應故人我自覆不親近同行善知
識故樂近雜縁自障障他往生正行故云佛恩ヲ報

ストモ念佛ノ數遍多ク申へシトミエタリト申云

第三段

上人御返事云仰旨謹奉候畢御信ヲトラシメ給様折
紙具ニ拜見候二分モ愚意ノ所存ニタカハス候フカク隨
喜シ奉候ナリ近來一念ノ外ノ數遍無益ナリト申義出
來候勿論不足言ノ事ニ候文釋ヲ離テ義ヲ申人已ニ
證得候歎如何尤不審候又フカク本願ヲ信スルモノ
破戒モカヘリミルヘカラサルヨシノ事コシマタトハせ給ニモ不
可及事ニ候附佛法ノ外道外ニ求ヘカラス凡ハ沈來念
佛ノ天魔キホヒ來テカクノコトキノ狂言イテキタリ候歎ナ
ヲトヲ左右ニアタワス候云取詮

第四段

成覺坊ノ弟子等越後國ニシテ一念義ヲ立ケルヲ上人
ノ弟子光明房トイフヒシリ多念ノ行者ナリケルカ心エヌ
事ニ思テカノ所述ノ法門ヲルシテ上人ニウタヘ申イシケ
ル六御返事云一念往生ノ義京中ニモ粗流布スル所
ナリ九言語道斷ノ事ナリ殆御問答ニ不可及歟所詮
雙卷經ノ下ニ乃至一念信心歡喜トイヒ又善導和
尚ハ上盡一形下至十聲一聲等定得往生乃至一
念無有疑心トイヘル此等ノ文ヲアシク了見スル輩大邪
見ニ住シテ申所ナリ乃至トイヒ下至トイヘルミナ上盡一
形ヲカ子タルコトハナリ而ヲ近比愚癡無智ノ輩多ク偏ニ

十念一念ナリト執シテ上盡一形ヲ廢スル条無慚無
愧ノ事ナリ實ニ十念一念マテモ佛ノ大悲本願ナラ必ス
引接シ給フ無上ノ功德ナリト信シテ一期不退ニ行ス
ヘキナリ文證多シトイヘトモコレヲ出スニヲヨハスイフニタラサ
ル事ナリコ、ニカノ邪見ノ人此難ヲカウフリテ答テイハクワ
カイフ所モ信ヲ一念ニトリテ念スヘキナリシカリトテ又念
スヘカラストハイハストイフコレ又詞ハ尋常ナルニ似タリトイ
ヘトモ心ハ邪見ヲハナシスシカルユヘハ決定ノ信心ヲモテ一
念シテノチハ又念セストイフトモ十惡五逆ナラ障ヲナサス
况中餘ノ小罪ヲヤト信スヘキナリトイフ此思ニ住センモノ
ハタトヒオホク念ストイフトモ阿彌陀佛ノ御心ニカナハンヤ

イツレノ經論人師ノ説ソヤコレヒトヘニ懈怠無道心不
當不善ノタクヒノ愆ニ惡ヲツクラント思テ申イタセル事ナ
リ九カクノコトキノ人ハ附佛法ノ外道ナリ師子ノナカノ
虫ナリ又ウタカフラクハ天魔波旬ノタメニ精氣ヲウハル、
輩ノモロモロノ往生ノ人ヲサマタケントスル致尤アヤシムヘ
シフカクオソルヘキモノナリ每事筆端ニツクシカクシ謹言

取證

第五段

光明房ノ狀ニツキテ上人一念義停止ノ起請文ヲ定
ラルカノ狀云當世念佛門ニオモムク行人等ノ中ニ多ク
無智誑惑ノ輩アリ未タ一宗ノ廢立ヲシラス一法ノ名

目ニヲヨハス心ニ道心ナク身ニ利養ヲモトムコレニヨリテ終
 ニ妄語ヲカニヘテ諸人ヲ迷亂ス偏ニコシテ渡世ノ計トシテ
 マダ々々來生ノ罪ヲカヘリミスカクマレク一念ノ偽法ヲヒ
 ロメテ無行ノトカラ謝シテサヘ無念ノ勅義ヲタテ、ナヲ
 一稱ノ小行ヲシテナフ微善ナリトイヘトモ善根ニヲイテア
 トヲケツリ重罪ナリトイヘトモ罪障ニヲイテイヨイヨ勢ヲマ
 ス刹那五欲ノ樂ヲラケンカタメニ永劫三途ノ業ヲオソレ
 ス人ヲ教示シテイハク彌陀ノ願ヲタノムモノハ五逆ヲハ、カ
 ルコトナシ心ニ任テコレヲツクシ袈裟ヲ著スヘカラスヨロシク
 直垂ヲキルヘシ媠肉ヲ斷スヘカラス恣ニ鹿鳥ヲ食ヘシ云
 弘法大師異生羶羊心ヲ釋シテ云々、媠食ヲオモフコト

カノ羶羊ノコトシ云コノ輩々、弊欲ニラケルコト偏ニカノ
 類歎十住心ノナカノ三惡道ノ心ナリタシカコレヲアハレ
 マサラシヤタ、餘教ヲ妨ノミニ非スカヘリテ念佛ノ行ヲ失
 フ懈怠無慚ノ業ヲ勸テ捨戒還俗ノ義ヲシマスコノ本朝
 ニ外道ナシコレ已ニ天魔ノカマヘナリ佛法ヲ破滅シ世
 ノ人ヲ惑亂ス妄語ヲカニヘテイハク法然上人ノ七萬反ノ
 念佛ハタ、コレ外ノ方便ナリ内ニ實義アリ人未タコレヲ
 シラス所謂心ニ彌陀ノ願ヲシシハ身カナラス極樂ニ往生
 ス淨土業コ、ニ満足シヌコノウヘニナンソ一 遍ナリトイフト
 モ重テ名號ヲ唱フヘキヤカノ上人ノ禪房ニヲイテ門人等
 二十人アリテ秘義ヲ談スル所ニ淺智ノ類ハ性鈍ニシテ

キヲ

未タサトラス利根ノ輩ワツカニ五入此深法ヲ得タリワレ
 ソノ一人ナリカノ上人ノ已心中ノ奧義ナリ容易コシヲサ
 ツケスエラヒテ傳授セシムヘシ云風聞ノ説モシ實ナラハ皆
 以虚言ナリ迷者ヲアハシマンカタメニ今誓言ヲタツ貧道モ
 シコレヲ秘シテイツハリテコノム子ヲノヘ不實ノコトヲシルサハ
 十方ノ三寶マサニ知見ヲタシ毎日七萬反ノ念佛ムナシ
 クソノ利益ヲウシナハン圓頓行者ノハシメヨリ實相ヲ縁ス
 ル六度萬行ヲ修シテ無生忍ニ至ルイツレノ法カ行ナク
 シテ證ヲアルヤ乞願ハコノ疑網ニ墮セシタクヒ邪見ノ稠林
 ヲ刃テ正直ノ心地ヲミカキ將來ノ鐵城ヲノカシテ終焉ノ
 金臺ニノボルヘシ胡國程遠シ思ヲ鴈札ニ通ス北陸境

遙カナリ心ヲ像教ニヒラクヘシ山川雲カサナリテ面ヲチ
 萬里ノ月ニヘタツシトモ化導縁アツクシテ膝ヲ一佛土ノ
 風ニチカツケン子細端多シ毛舉ニアタハス而已

兼元三年六月十九日沙門源空 取註

第三十卷

第一段

上人ノ師範功德院ノ肥後阿闍梨皇圓ハ叡山救生
 法橋皇覺ノ弟子ニテ顯密ノ碩才ナリキ而ニツラツラ思
 惟スラク自身ノ機分ヲハカルニコノタヒタヤスク生死ヲ出
 ヘカラスモシタヒタヒ生ヲアラタメハ隔生即忌シテ定テ佛
 法ヲワスルヘシ今タママ人身ヲウシトイヘトモ恨ラクハ二

忘

佛ノ中間ニシテナヲ生死ニ輪廻センコトヲシカシ長命ノ
報ヲ得テ慈尊ノ出世ニアハンニハ命ナカキモノ蛇ニスキタル
ハナシ我シ必ス大蛇ノ身ヲウクヘシ但シ大海ハ金翅鳥ノ
恐アリ池ニスメント思テ遠江國笠原ノ庄ニサクラノ池ト
云池ヲカノ所ノ領家ニ申ウケテ放文ヲトリ命終ノトキ
水ヲコヒ掌ノ中ニ入ヲハリニケリ其後雨フラス風フカサル
ニ彼池ニカニ水マサリ大波立テ池中ノ塵モクツ悉クハラ
ヒアク諸人耳目ヲ驚スヨシ彼所ヨリ領家ニシルシ申タリ
ケシハ日時ヲ勤ヘラル、ニ彼ノ閻梨命終ノ日時ニテソア
リケル當時ニ至ルマテシツカナル夜ハ池ニ振鈴ノ音キコユ
ナントツ申ツタヘ侍ル末代ニハカ、ルタメシアリカタクヤ侍

ルラン上人ノ給ケルハ智慧アリテ生死ノ出カタキコトヲシリ
道心アリテ慈尊ニアハン事ヲ子カフトイヘトモヨシナキ畜趣
ノ生ヲ感セルコトシカシナカラ浄土ノ法門ヲシラサルユヘナ
リ源空ソノカミ此法ヲタツ子エタラマシカハ信不信ズカヘリ
ミスサツケ申ナマシ極樂ニ往生ノ後八十方ノ國土心ニ
任テ經行シ一切ノ諸佛思ニ隨テ供養ス何ソ必シモ又
ク穢土ニ趣スルコトヲ子カハン彼閻梨ハルカニ後佛ノ出世
ヲ期シテイタツラニ池ニスミ給ハンコトイタハシキワサナリトソ
仰ラレケル

第二段

妙覺寺ニ淨心房トテサカシキヒシリアリキ道心フカキヨシ

ニテ寺門ヲ出ス念佛ヲ行スルアリサニ常ノ人ニコエタリ歸
依スル人雲霞ノ如シ五十八カリニテ他界シケルニ臨終散
散ナリケリ人々コレヲアヤシミテ妙覺寺ノ上人タニモ往
生セス况ヤ餘人ヲヤト申アヒケルヲ上人聞給テイサシラ
ス虚假ノ行者ニテヤアリツラト仰ラシケリ其後四十九
日ノ佛事ニ上人ヲ請シ奉テ唱道トス日來ノ所化トモア
ツマリテ種々ノ捧物ヲ捧ケケルナカニ常隨ノ弟子衣箱
ヲ取出テコレハ先師年來ノ所持物ナリコトサラトテ御布
施ニ奉シリ件ノ箱ニハ布ノ衣袴ノ尋常九ト布ノ七帖ノ
袈裟并ニ十二門ノ戒儀ヲフカクオサメタリケリ上人仰
ラレケルハ日來源空カ申ツルコトハタカハサリケリコノヒシリ

ユ、シキ虚假ノ人ナリケリ此所持物ヲミルニ徳タケテ人
ニタウトカラレテ戒師ニチラントオモフ心ニテヲコナヒケルナリ
トノ給ケレハ人ミナ不審ヲヒラキケリ

第三段

手冢

治業四年十二月廿八日日本三位中將重衡卿父平
相國ノ命ニヨリテ南都ヲセメシトキ東大寺ニ火カ、リシ
カハ大伽藍忽ニ灰燼ト成テ其後元暦元年二月七日
一ノ谷ノ合戰ニ彼中將イケトラシテ都へ上テ大路ヲワタ
サシサマサマノコトアリキ後生菩提ノ事ヲ申アハセニタメニ
ツノ請アリケレハ上人オハシテ對面シ給テ戒ナントサツケ申
サシテ念佛ノコトクハシク教導アリケリコノタヒ生ナカラト

ラシタリケルハイマ一度上人ノ見參ニ入ヘキユヘニテ侍リケルトテカキリナク悅申サシケリ受戒ノ布施トオホシクテ雙紙^{フタヒ}菅ヲ取出テ上人ノ前ニサシヲキテ申サレケルハ御要タルヘキ物ニハ侍ラ子トモ御目チカキ所ニヲカセ給テカツハ重衡カ餘波トモ御覽シ且ハ思食出候ハンタヒニハトリワキ御廻向アルヘキヨシヲ申サル、上人ソノ志ヲ感シテウケトリテ出給ニケリ

第四段

東大寺造營ノ爲ニ大勸進ノ聖ノ沙汰侍ケルニ上人其撰ニアタリ給ニケレハ右大弁行隆ノ朝臣ヲ御使ニテ大勸進職タルヘキヨシ法皇^{後白河}ノ御氣色アリケルニ上人

申サレケルハ山門ノ交衆ヲノカシテ林泉ノ幽栖ヲシメ侍コトハシツカニ佛道ヲ修シ偏ニ念佛ヲ行セシカタメナリモシ勸進ノ職ニ居セハ^{ナク}事務萬端ニシテ素意モハラソムクヘキヨシヲカタク辞申サシケリ行隆朝臣ソノ志ノ堅固ナルヲミテコトノ由ヲ奏シケレハモシ門徒ノ中ニ器量ノ仁アラハ擧申ヘキヨシ重テ仰下サレケルニヨテ醍醐ノ俊乘坊重源ヲ擧申サル遂ニ大勸進ノ職ニ補セラシケリ俊乘房伊勢大神宮ニ參テ此願モシ成就スヘクハソノ瑞相ヲ示シ給ヘト祈請シケルニ三七日ノ曉ウチマトロメルニ唐裝束シタル貴女方寸ノ玉ヲ授ケ給フト思テサメテミレハ彼玉ツツ、ニ袖ノ上ニアリ重源コレヲ得テ大ニ悅ヒ珍秘ス其

夢

仰信

後天下響ノ如ニ應シテ財寶心ニ任ケル程ナク金銅ノ
本尊モトノコトクミカキアラハシ奉リニケリ重衡卿ノ上人
ニ進スル所ノ鏡ヲ結縁ノ爲トテ送ツカハシケル佛ヲ鑄タ
テツル燼ノナカニ入ルニ飛出テ遂ニワキアハサリケリ不思
議ノ事トソ申アヒケル大佛殿ノ正面ノ柱ニ打ツケテ侍ハ
彼鏡ニテナン侍ナル

第五段

壽永元曆ノ比源平ノ亂シニヨリテ命ヲ都鄙ニウシナフ
モノ其數ヲシラスコノ俊乗房無縁ノ慈悲ヲタシテカノ
後世ノクルシミヲ救ハシタメニ興福寺東大寺ヨリ始テ道
俗貴賤ヲ勸テ七日ノ大念佛ヲ修シケルニソノ比マテハ

人未タ念佛ノイミシキ事ヲシラスシテ勸メニカナフモノスク
ナカリケルハ俊乗房コノ事ヲ歎テ人ノ信ヲ勸ニカタメニ建
久二年ノ比上人ヲ請シ奉テ大佛殿ノイマタ半作ナリ
ケル軒ノ下ニテ入唐ノ時渡シ奉レル觀經ノ曼陀羅并ニ
淨土五祖ノ影ヲ供養シ又淨土ノ三部經ヲ講セサセ奉
ツリケルニ南都三論法相ノ碩學多クアツリケル中ニ大
衆二百餘人ヲノヲハタニ腹卷ヲ著シテ高座ノキハニ十
ミ居テ自宗ノ義ヲ問カケテ訛謬アラハ耻辱ヲアタヘント
支度シタリケルカ上人一ツニ論法相ノ深義ヲノへ次ニ淨
土一宗ノ秘願ヲコマヤカニ釋シ給テ末代ノ凡夫ノ出離
ノ要法ハ口稱念佛ニシクハナシモシ念佛ヲシラントモカラ

八無間地獄ニ墮テ八萬大劫苦ヲ受ヘキヨシ觀佛經ノ
説ニマカセテ説給ケレハ二百余人ノ大衆ヨリハシメテ隨喜
渴仰キハマリナシ東大寺ノ一和尚觀明坊ノ已講理真
コトニ涙ニムセヒテ八旬ノヨハヒニテタモテル事ハ偏ニ此事
ヲキカンタメナリトソ悦申ケルサテソノ次テ三天台圓頓ノ
十戒ヲ解説シ給ニ吾山ハ大乘戒コノ寺ハ小乘戒トノへ
給ケレハ大衆存外ノ氣色トモナリケシトモ當寺ノ古老ノ
中ニ兼日ニ靈夢ヲシメスコトアリケルヲサキタテ披露シケ
ルニヨリテ斟酌シケルニヤ衆徒各々口ヲ閉テ別事ナカリ
ケリ

第六段

上人ヤマトヲタラ事トシ給ハサリケシトモ我國ノ風俗ニ隨
テ法門ニヨセテハトキトキオモヒヲノヘラレケルニヤ或ハ門弟
ノナカニシルシヲケルヲ申ツタヘ或ハテツカラ書付給ヘルヲ
没後ニ披露シケル

春

サハラシ又光モアルヲオシナヘテヘタテカホナルアサカスミカナ
夏

ワレハタホトケニイツカアフヒクサコノロノツミカケ又日ソナキ
秋

阿彌陀佛ニツムル心ノ色ニイテハ秋ノ梢ノタラヒナラマシ
冬

雪ノウチニ佛ノ御名ヲ唱シハツモレルツミソヤカテキエヌル
逢佛法捨身命ト云ヘル事ヲ

カリソメノ色ノユカリノ戀ニタニアフニハ身ヲモオシミヤハスル

勝尾寺ニテ

柴ノ戸ニアケクシカ、ル白雲ヲイツ紫ノ色ニミナサシ此歌入玉葉集

極樂往生ノ行業ニハ餘ノ行ヲサシヲキテタ、本願

ノ念佛ヲツトムヘシト云コトヲ

阿彌陀佛トイフヨリ外ハツノ國ノナニハノコトモアシカリヌシ

極樂ヘツトメテハヤクイテタ、ハ身ノヲハリニハ、イリツキナシ

阿彌陀佛ト心ハ西ニツツセミノモヌケハテタルコエソヌ、シキ

光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨ノ心ヲ

松

月影ノイタラヌ里ハナケレトモナカム人ノ心ニソス此歌入續千載集

三心ノ中ノ至誠心ノ心ヲ

往生ハヨニヤスケレトミナ人ノニコトノ心ナクテコソセ子

睡眠ノ時十念ヲ唱ヘシト云事ヲ

阿彌陀佛ト十聲唱テマトロシナカキ子フリニナリモコソスシ

上人テツカラ書ツケ給ヘリケル

チトセフル小船ノモトラスミカニテ無量壽佛ノムカヘヲソツ

オホツカナタシカイヒケシニコツトハ雲ヲサ、フルタカ、ツノ枝

池ノ水人ノ心ニ似タリケリニコリスムコトサタメナケレハ

ムシテハマツ思ヒ出シフルサトニ契シ友ノフカキマコトヲ

阿彌陀佛ト申ハカリヲツトメニテ浄土ノ莊嚴ミルソウシキ

元久二年十二月八日 源空

傳繪詞卷六終

